

平成29年度「高校生のための学びの基礎診断」に関する試行調査・研究事業の
公募結果について

1. 実施日程等

原則として平成30年1月中（対象校と日程調整の上設定する）

2. 試行調査の対象

【継続団体】

	団 体	実践研究校
1	北海道教育委員会	札幌英藍高等学校
2	山形県教育委員会	庄内総合高等学校
3	石川県教育委員会	松任高等学校
4	静岡県教育委員会	熱海高等学校
5	滋賀県教育委員会	玉川高等学校
6	大阪府教育委員会	大阪府教育センター 附属高等学校
7	兵庫県教育委員会	柏原高等学校
		姫路南高等学校
8	島根県教育委員会	出雲農林高校
9	岡山県教育委員会	林野高等学校
		岡山工業高等学校
10	福岡県教育委員会	朝倉東高等学校
合計		12校

【新規団体】

	団 体	実践研究校
1	千葉県教育委員会	船橋法典高等学校
2	山梨県教育委員会	市川高等学校
		富士北稜高等学校
3	岐阜県教育委員会	海津明誠高等学校
4	三重県教育委員会	菰野高等学校
5	奈良県教育委員会	榛生昇陽高等学校
6	高知県教育委員会	高知丸の内高等学校
7	学校法人文理開成学園	文理開成高等学校
合計		8校

3. 委託事業者

調査 対象	事業	本体調査		アンケート調査（共通）
		教科等	受託事業者	受託事業者
継続 団体	A	国語・数学・英語	(株)ベネッセコーポレーション	(株)ベネッセコーポレーション
新規 団体	B	国語	(株)ベネッセコーポレーション	
	C	数学	(株)教育測定研究所	
	D	英語	公益財団法人日本英語検定協会	
	E	国語・数学・英語 (CBT調査)	(株)内田洋行	

※原則として、実践研究校の第1・第2学年の全学級を対象とする。

ただし、事業EのCBT調査については、第1・第2学年の各1学級を対象とする。

※各事業の受託事業者は、「アンケート調査（共通）」とは別に、受託した本体調査に関する「事後アンケート調査」を実施する。

4. 本体調査における出題の枠組み

各事業者の企画提案書・事業計画書等に基づき作成（今後、変更が生じる場合がある）。

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
A	国語	国語総合 ※義務教育段階の内容を含める	50分	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型問題（想定された場面において相手や目的に応じて適切に表現する）など 与えられた情報をもとに論理構成を考えてまとめるなど40字程度や80字程度などの記述式（一部選択式を含む） 20字程度の見出しにまとめる、与えられた条件に沿って120字程度で自分の考えを書くなどの記述式（一部選択式を含む）
				統合的応用問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活とのつながりを意識した設定において、高校生に求められる基礎的な国語の能力を確認する問題 テキストの全体又は部分を把握、精査・解釈して解答する問題（記述式、一部選択式含む）
	数学	数学I ※義務教育段階の内容を含める	50分	数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒「数と式」、「関数」、「図形」、「データの分析」（記述式。数値のみを答える問題や選択式も一部含む）	
				統合的応用問題	数学と生活を関連づけ、数学的方法によって課題を解決する場面を設定し、高校生に求められる数学の基礎的な能力を確認する問題（記述式。数値のみを答える問題や選択式も一部含む）
	英語	コミュニケーション英語I ※義務教育段階の内容を含める (レベル: CEFR A1~A2)	65分	聞くこと (16分)	イラスト説明問題、会話応答問題、要点理解問題、課題解決型問題など（すべて選択式） ※リスニングCDによる実施を想定。
				読むこと (24分)	情報検索・概要把握問題、要点理解問題、課題解決型問題など（すべて選択式）
書くこと (10分)				状況描写問題、意見陳述型問題など（すべて記述式）	
話すこと (15分)*				応答問題、音読問題、意見陳述型問題など（すべて口述式） ※タブレットを用いたCBT形式とする。	

* 英語（話すこと）の15分は、解答の準備等を含めた実施時間。実際に受検者が英語に向き合う時間は10分程度を想定。

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
B	国語	国語総合 ※義務教育段階の内容を含める	50分	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型問題（想定された場面において相手や目的に応じて適切に表現する）など 与えられた情報をもとに論理構成を考えてまとめるなど40字程度や80字程度などの記述式（一部選択式を含む） 20字程度の見出しにまとめる、与えられた条件に沿って120字程度で自分の考えを書くなどの記述式（一部選択式を含む）
				統合的応用問題	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活とのつながりを意識した設定において、高校生に求められる基礎的な国語の能力を確認する問題 テキストの全体又は部分を把握、精査・解釈して解答する問題（記述式、一部選択式含む）

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
C	数学	数学I ※義務教育段階の内容を含める	50分	数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒「数と式」、「図形と計量」、「二次関数」、「データの分析」の内容について活用する問題（解答は記述式。必要に応じて選択式も一部含む）	
				統合的応用問題	数学と生活を関連づけ、数学的方法によって課題を解決する場面を設定し、高校生に求められる数学の基礎的な能力を確認する問題（解答は記述式。必要に応じて選択式も一部含む）

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	
D	英語	コミュニケーション英語I ※義務教育段階の内容を含める (CEFRのA1～A2レベルを目安)	70分	聞くこと (15分)	多肢選択式 ※リスニングCDによる実施を想定。
				読むこと (20分)	多肢選択式
				書くこと (15分)	記述式
				話すこと (20分)	<p>予め録音された質問に対して解答をデジタル端末機に吹き込むCBT方式</p> <p>※実践研究校に設置されたPCの利用及び委託事業者から実践研究校へのPC（タブレット端末を含む）の貸与を検討する。</p>

事業	教科	範囲	想定解答時間	出題内容	解答方式	
E	国語	国語総合を上限	50分	「知識・技能」を問う問題(約7割)、 「思考力・判断力・表現力等」を問う問題(約3割)を目安に作問 ※義務教育段階の内容を含める	・「話すこと・聞くこと」⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ・「書くこと」⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ・「読むこと」⇒【大問2題(設問5~6程度)】 ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」⇒【設問6題】 ・「統合的応用問題」⇒【大問1題(設問2~3程度)】 ※設問レベルで計20題を上限	C B T方式により、選択式、記述式から必要な方法で出題
	数学	数学Ⅰを上限	50分	・基礎的な知識・技能について確認する問題⇒【10問程度】 ・数学に関する基礎的な知識・技能を活用して解く問題⇒【4問程度】 ・統合的応用問題⇒【1問程度】を目安に出題		
	英語	コミュニケーション英語Ⅰを上限	50分	「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3技能を調査対象とする。 (CEFRのA1~A2レベルを目安) ※義務教育段階の内容を含める		

※C B T方式調査においては、実践研究校のコンピュータ教室等のP Cを用いて、同校のインターネット環境等を踏まえて、オンライン又はU S Bメモリ等の外部記憶媒体を用いた方法を試行する。

5. 本体調査問題の難易度及び作成セット数

問題レベル	事業ごとの作問数	
	事業A~D	事業E(CBT調査)
高等学校段階の内容を中心とした問題セット(標準レベル)	3セット	1セット
義務教育段階の内容を半数程度盛り込んだ問題セット(基本レベル)	3セット	1セット

※実践研究校は、学校ごとにいずれか一つの問題レベルを選択のうえ受検する。

6. アンケート調査

アンケートの種類	対象	概要	アンケートの形式	備考
①アンケート調査(共通)	生徒	生徒の学校内外での学習状況、生活の諸側面等	紙(マークシート等)	アンケート項目は平成28年度試行調査と同様もしくはこれをベースに検討
	学校	生徒の状況、学校での授業・補習等の指導状況、P D C Aサイクルの具体的な取組状況等	紙(紙もしくは、web上での入力を検討)	
②本体調査に関する事後アンケート調査	生徒	問題の難易度、解答時間の適否、感想等	紙(記述以外はマークシート等)	アンケート項目は本体調査に対応した教科について、受託事業者が作成
	学校	問題の内容等に関する所見等	紙(事業者によっては、紙もしくは、web上での入力を検討)	

※各受託事業者においては、アンケート調査に加えて、一部の学校を抽出の上、同校教員及び生徒の協力を得てインタビューを行うことにより、調査の充実を図る予定。